新時代に対応した高等学校改革推進事業
（普通科改革支援事業）

翔びたて柏高！　丹波からTANBAへ！！
～地域での学びを自分の未来へつなぐ～

兵庫県立柏原高等学校
令和５年９月22日（金）

Ⅰ はじめに

1．柏原高等学校の概要

2．柏原高等学校の教育目標

～４２,０００人を超える若者が学び、巣立っていきました～

【旧制中学のあゆみ】
１８９７（明治３０）年　「兵庫県立柏原尋常中学校」として開校　１０３名入学
１８９９（明治３２）年　「兵庫県柏原中学校」と改称
【高等女学校のあゆみ】
１９０２（明治３５）年　柏原町立の「女子補習科」　２５名が入学
　　翌年　「柏原町立柏原女学校」となる
１９０８（明治４１）年　「氷上郡立柏原高等女学校」となる
【高等学校のあゆみ】
１９４８（昭和２３）年　柏中・高女は合併「兵庫県立柏原高等学校」が開校
１９８６（昭和６１）年　理数コース設置
１９８７（昭和６２）年　普通科単独の高校となる
１９９７（平成　９）年　創立１００周年を迎える
２００３（平成１５）年　理数コースをベーシックサイエンスコースに改組
２００７（平成１９）年　創立１１０周年を迎える
２００８（平成２０）年　ベーシックサイエンスコースを知の探究コースに改組
２０１４（平成２６）年　スーパーグローバルハイスクール（ＳＧＨ）アソシエイト校に指定（文部科学省）～２０１８年まで
２０１７（平成２９）年　創立１２０周年を迎える
２０１８（平成３０）年　ひょうごスーパーハイスクール（ＨＳＨ）に指定（県教育委員会）
２０１９（令和　元）年　地域との協働による高等学校教育改革推進事業[グローカル]に指定（文部科学省）～２０２１年まで
２０２２（令和　４）年　**新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）に指定（文部科学省）**
２０２４（令和　６）年　**「知の探究コース」を「地域科学探究科」に改組（予定）**

柏高のシンボル「楠」

○教　育　目　標

「進取創造」「質実剛健」「敬愛和協」の理念のもと、主体的に物事にチャレンジし多様な価値観を理解し共同する力を備え、人類や地域社会に貢献できる人材を育成する。

○学校経営の重点

「翔びたて柏高！　丹波からＴＡＭＢＡへ！！」　～地域の学びを自分の未来へとつなぐ～

○柏原高校のミッション

・地域を支える人材育成
・全国、世界で活躍するリーダーの育成

○目指す生徒像

・物事に主体的にチャレンジする生徒
・多様な価値観を理解し、協働する生徒
・地域課題解決に寄与する生徒

Ⅱ　令和４年度の成果

1．カリキュラムの開発と研究

2．外部人材を招聘した講演会や探究活動に関する指導

3．探究発表会の実施

4．運営指導委員会の体制および取組

5．コンソーシアム体制および取組

6．コーディネーターの配置および活動内容

7．成果の普及のための仕組み

【兵庫県立柏原高等学校】地域社会学科・地域科学探究科（令和6年度設置予定）

●「地域科学探究科」（地域社会学科）

育成する資質・能力	・地域課題を理解し、地域活性化や課題解決に向け積極的に関わることのできる資質・能力 ・他地域との比較や、世界的な課題との関連を探る活動を通じて多様な価値観を理解できる資質・能力 ・生活体験や地域での学び、交流から、他者と自分の差異に気づき、差異を生かす方法を考えることができる資質・能力

【特色ある教育活動】
・地域を対象とした探究活動の展開、論文作成・発表　・英語を含めた表現力を活用した地球規模の課題解決へのアプローチ

令和4年度の成果

総合的な探究の時間の開発

【主な取組】
・「丹BAL Ⅰ」（第1学年）
　新たなテキストや講演会等による探究の手法の習得
・「丹BAL Ⅱ」（第2学年）
　前半　地域活性化策のまとめ
　後半　台湾（沖縄）研究
　　（防災、観光、平和等の探究活動）
・「地域課題から世界を考える日」の開催
　第1・第2学年全生徒の発表会
【課題】
・関係機関等との連携
・探究活動と各教科の授業との連携

学校設定教科・科目の開発

【主な取組】
・学校設定科目「グローカル」の実践
　第3学年選択
　台湾とのオンラインによる交流
　テーマ設定と個人研究の実施
　英語によるプレゼンテーション
・他の学校設定科目の設定に向けた協議
【課題】
・研究成果の引継ぎ、担当外の教員との年間指導計画等の共通理解（探究活動との連携）
・学校設定科目「ポスター英語」「メディアイングリッシュ」の内容検討

成果普及・情報発信

【主な取組】
・学校ホームページでの情報発信
・他校との発表会、中学校での発表会への参加
・校内発表会や地域イベント（ランタンフェス等）の新聞掲載
・報告書の作成、配付
【課題】
・大学等が実施する発表会、研究会等への参加
・オープン・ハイスクールや学校説明会等での中学生への説明

教員の意識・資質向上

【主な取組】
・教職員によるディスカッション
・探究的な学習に関する意識・実施状況調査の実施
　⇒意識、課題の把握
【課題】
・探究活動に対する共通理解及び指導技術の向上
・コーディネーター、関係機関と連携した探究活動の実施
・探究活動と連携した教科指導の試行

コーディネーターの取組

【主な取組】
・コーディネーターによる、校内と外部との調整
・外部との連携による、新たな探究活動の提案
・生徒の資質・能力を評価するルーブリックの開発
・教職員のディスカッションの開催
・インプットからアウトカムまでのロジックモデルの開発
【課題】
・ルーブリック、ロジックモデルの設定
・校内外との連携体制の構築

関係機関等との連携・協力体制

【主な取組】
・探究活動等への外部講師の招聘
・運営指導委員会の開催
　⇒取組に対する助言、指摘等
・丹波市役所、丹波市教育委員会等との連携
【課題】
・コンソーシアムの構築に向けた取組

別紙様式5

カリキュラムの研究・開発目標

①地元の丹波地域をフィールドにして地球規模で活躍する人材を育成するカリキュラムとする。
②文理融合型の課題研究とする。
③地域の教育資源を活用して地域課題の解決に取り組む学びとする。
④探究的な学びを深化させるために、探究に特化した学校設定教科に関する科目及び総合的な探究の時間を合わせて７単位以上とする。
⑤スクール・ミッションおよびスクール・ポリシーに基づく。
⑥教育目標に則した教科横断的で体系的なものとする。
⑦探究に特化した学校設定教科を生かしたカリキュラムとする。
⑧学校設定科目の名称や内容を精査する中で、各教科の配置やバランス等を考慮する。

新学科カリキュラム（案）

第1学年

丹BALⅠⅡⅢは総合的な探究の時間

類型	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	20	21	22	23	25	26	27	28	29	30	31	32
1年	現代の国語		言語文化		歴史総合		数学Ⅰ			数学A		物理基礎		化学基礎		体育			保健	芸術Ⅰ		英語コミⅠ			論理・表現Ⅰ		家庭基礎		情報Ⅰ		丹BALⅠ	LHR

注）「英語コミ」→「英語コミュニケーション」の略

第2学年

類型	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
文系	論理国語		古典探究		地理総合		公共		数学Ⅱ				数学B		体育		保健	英語コミⅡ			論理・表現Ⅱ		生物基礎		発展化学＊		日本史探究	世界史探究	丹BALⅡ		ポスター英語＊	LHR
理系																							生物基礎		生物	物理	化学					

理系理科は「生物基礎･生物(4単位前後期)」と「生物基礎(2単位)」＋「物理(2単位)」の2グループに分かれる。

第3学年

類型	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
文系	論理国語		古典探究		体育		英語コミⅢ				論理・表現Ⅲ		メディアリテラシー＊		日本史探究	世界史探究		政治経済		応用理科＊		発展国語＊		発展数学＊			数学C		数理情報処理＊	丹BALⅢ		LHR
理系													地理探究			物理	生物			化学				数学Ⅲ								

理系生徒が数学Ⅲを履修しないで「数学研究」を履修することは可能。

探究に関する学校設定科目と総合的な探究の時間

科目名	内容	具体的な取組
丹BALⅠ	「探究基礎講座」で自身のスキルを磨く	テキストを利用したミニ探究を通じて、探究の基礎を学び、グループ研究で基礎実践をし、まとめ発表まで段階的に研究を進める。
丹BALⅡ	「探究応用実践」として個人の研究と充実した探究活動	「丹BALⅠ」で学んだスキルを活用し、研究テーマを設定して個人研究を進める。問題解決能力を向上させる。
丹BALⅢ	「探究発表」「自己探究」で自己の目標を実現	探究発表の場で表現スキルを磨く。自己理解を深め、自己表現スキルを磨く。
ポスター英語 教科横断型探究Ⅰ	教科の枠をこえた学びで思考力を身につける	教科をこえた知識と論理的思考力を組み合わせることで、新たな解を創造する思考力を磨く。
教科横断型探究Ⅱ	解を創造する思考力を磨き、社会で生かす	問題解決学習やクリティカルシンキングの力を実社会の問題にアプローチする。

２．外部人材を招聘した講演会や探究活動に関する指導

生徒が地域の現状や課題を正確に理解し、生徒自身が疑問や課題を持って主体的に探究活動に取り組むことを目的に、様々な外部人材を招聘して講演会の実施や探究活動への指導を行った。

	内容	実施日	講師・指導助言
1	講演「丹波市の医療課題」	６月24日	学校医
2	「探究Ⅰ発表会」 講演「探究的学びを経験して」	７月15日	慶応大学 神戸大学 探究活動を経験した社会人 企業経営者
3	「専門家らに学ぶ」	９月６日	里山活動家（環境、森林に関して）
4	講演「老年学 超高齢社会で役立つ“人”になろう」	10月４日	筑波大学
5	講演「感染症の分類と現状について」	10月４日	徳島大学
6	講演「医師としてのキャリアパス ー地域医療から医学研究までー」	10月４日	神戸大学
7	講演「環境分析化学入門」	10月４日	広島大学
8	「地域協働学習」中間発表	11月21日	関西学院大学
9	講演「防災教育」	１月19日	防災に関する専門家
10	「地域課題から世界を考える日」	１月27日	関西学院大学　福知山公立大学ほか

３．探究発表会の実施

令和５年１月27日に探究発表会「地域課題から世界を考える日」を県立柏原高等学校で実施した。
（各教室及びZoomによる配信）

ねらい	○令和４年度の「総合的な探究の時間」における学習成果の発表の場で、他者からの批評・助言による濃い相互省察の機会を設けることで、取組への意義を進化させる。 ○探究活動における学びの質的向上と基礎学力の向上をめざし、協働して学ぶ生徒の主体的な態度を育成する基盤を協創する。
場所	各教室および会議室
時間	第１部　８：３５～１０：５０ （保護者には第１部から配信） 第２部　１１：００～１２：３５ （外部にも公開）

４．運営指導委員会の体制および取組

○運営指導委員会は２回開催。
○専門的な知見を有する大学関係者や企業関係者、自治体関係者、地域関係機関等の委員で構成。
○カリキュラムのあり方、コーディネーターを中心とした校内の体制整備、コンソーシアムの構築や連携、中学校等への周知・広報等の進捗状況についての助言、意見交換。
○委員会の構成員である県教育委員会事務局から、県全体の施策等を踏まえた指導助言。

所属・職	備考
関西学院大学　フェロー	学校教育や探究活動に専門的知識を生かしカリキュラム開発等で指導・助言
福知山公立大学　准教授	学校における地域との協働の専門的知識を生かし、地域連携等で指導・助言
兵庫県立人と自然の博物館　館長	高等学校と地域連携のあり方、探究活動について指導・助言
東京大学大学院　教授	カリキュラム開発など専門的知識をもとに、運営指導委員として指導・助言
丹波市観光協会　会長	関係機関の責任者　探究活動の講師　運営指導委員として助言をいただく
丹波市ふるさと創造部　政策係長	関係行政機関の職員　探究授業の講師を派遣
兵庫県教育委員会　高校教育課長	管理機関　本事業に対する県独自の支援（探究ルームの整備、指導・助言）

	実施日	実施内容
第１回	８月23日	・新学科設置に向けての現状と課題の共有 ・現在の取組と探究活動にについて協議
第２回	１月27日 ※対面、オンライン同時実施	・今年度の取組状況についての報告 ・ルーブリックの作成に向けての指導・助言 ・今後の推進についての指導・助言

５．コンソーシアム体制および取組

○コンソーシアムやOBのつながりを活かした協働体制の構築を目指し、地域人材育成のための探究活動に取り組み、学びの質の向上をめざした。
○特に令和4年度は、市役所の各課や市内の公共施設に協力いただき、地域課題解決のための学びを支援いただいた。

所　属	職　名	備　考
丹波市	市　長	関係行政機関として、探究授業における講師を派遣
丹波市教育委員会	教育長	小学校・中学校との連携　職員研修会で支援
丹波県民局	局　長	地域とともにある学校の観点から、探究活動を支援
丹波市商工会議所	会　頭	地域経済を支えるとともに、探究活動の講師を派遣
丹波市観光協会	会　長	地域の観光業の活性化に向けた探究活動講師　運営指導委員
丹波医療センター	院　長	地域の看護師や医療関係者の養成に向けた医療セミナーの講師
丹波市国際交流協会	会　長	国際交流の支援　交換留学等で協力
福知山公立大学	准教授	新学科設置に向けたカリキュラム開発　運営指導委員
兵庫県教育委員会	高校教育課長	管理機関　本事業に対する県独自の支援・指導・助言

６．コーディネーターの配置および活動内容

学校職員やコンソーシアム等の地域関係者との関係づくりを中心に、新学科設置に向けて教員と協力して活動した。生徒の探究活動を進めるにあたって、地域課題、情報共有、関係機関との調整などを担った。

- ○　地域や学校の抱える課題の言語化、可視化、共有化
- ○　研究推進・新学科設立検討チームへの参加、カリキュラム開発にあたっての協力、支援
- ○　研究推進体制づくりの原案づくり
- ○　丹BALを中心とした教科科目の参画授業を試験的に実施し、教科間連携を強化
  - →　探究授業の打合せで職員間の共通理解、新学科に向けた話し合いを支援

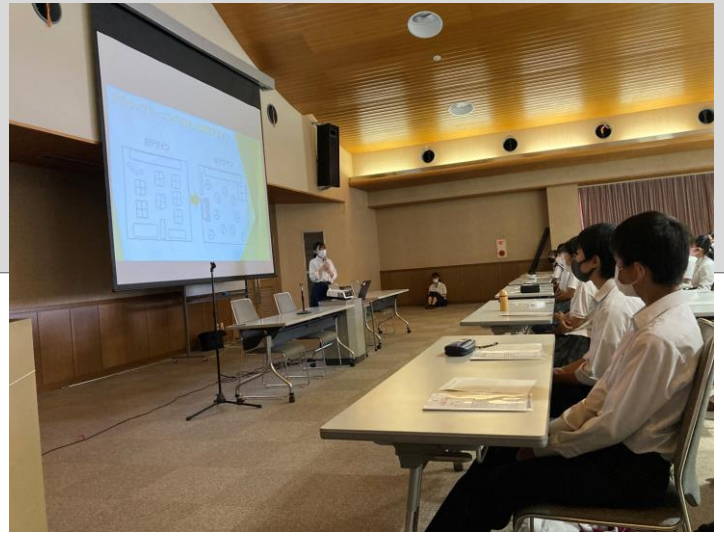
所属		5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
NPO法人imagine丹波より１名	日数				3	7	8	10	9	10
	時間				7	15	26	30	24	30
丹波市市民活動支援センターより１名	日数				3	5	6	7	7	10
	時間				7	19	24	22	21	30

７．成果の普及のための仕組み

新聞社等への取材依頼、ホームページへの掲載、オンラインの活用等を通じて、生徒の学びの質が高まるような工夫や取組を行った。

（主な発表実績）

○11月15日　連携校発表会への参加と連携協議会への出席（啓明学園中学校高等学校）
○12月18日　甲南大学リサーチフェスタ2022　２年知の探究コースのグループ研究発表
○12月18日　「総合的な探究の時間」共創イベントにおける実践発表会（東京学芸大学）
○12月20日　「探究総合発表会」（本校）
○１月27日　「地域課題から世界を考える日」（本校）
○２月５日　「SDGs探究発表会」（兵庫県立兵庫高等学校）



兵庫県立柏原高等学校 ロジックモデル

インプット

校内　授業

- 各科目授業
- カリキュラム研究・開発
- 地域との連携基盤・体制の構築
  コーディネーターとの連携
- 市役所との連携
- 社会教育施設との連携
- 丹波市在住の大学ゼミナールとの連携
- 海外との連携基盤・体制の構築
- 運営指導委員会設置

連携　共同授業

アクティビティ

課内学習

- 課題研究
- 丹波市役所との共同研究
- ローカルキャリア養成セミナー
- 「地域課題から世界を考える日」
- 進路探究WEEK
- 「グローバル・サミット」
- 教科横断的学習実践
- 修学旅行(台湾)
- 海外連携校との相互訪問(韓国，カンボジア)
- 海外連携校とのテレビ会議による協働学習

課外学習

- 部活動での探究学習
- ひょうごグローバル・リーダー育成キャンプ
- 小中高連携事業
- 国内外の大会(SGH甲子園，国際問題を考える日)
- 丹波市議会☆ミライプロジェクト
- 防災支援，災害ボランティア派遣

アウトプット

経験と学び・交流　表現の場の増加

- 地域の資源や課題に触れる機会の増加
- グローバルな社会課題に触れる機会の増加
- 学際的、探究的、協働的な学びの機会の増加
- 多様な価値観との接触
- 生徒が表現・交流する場を多く提供

中間アウトカム

自己成長力

- アカデミックな視点から問題を捉える姿勢が育まれる
- 自己理解・自己肯定感が高まり、将来を見通しを立てられるようになる
- 多面的・総合的に問題を捉える姿勢が育まれる

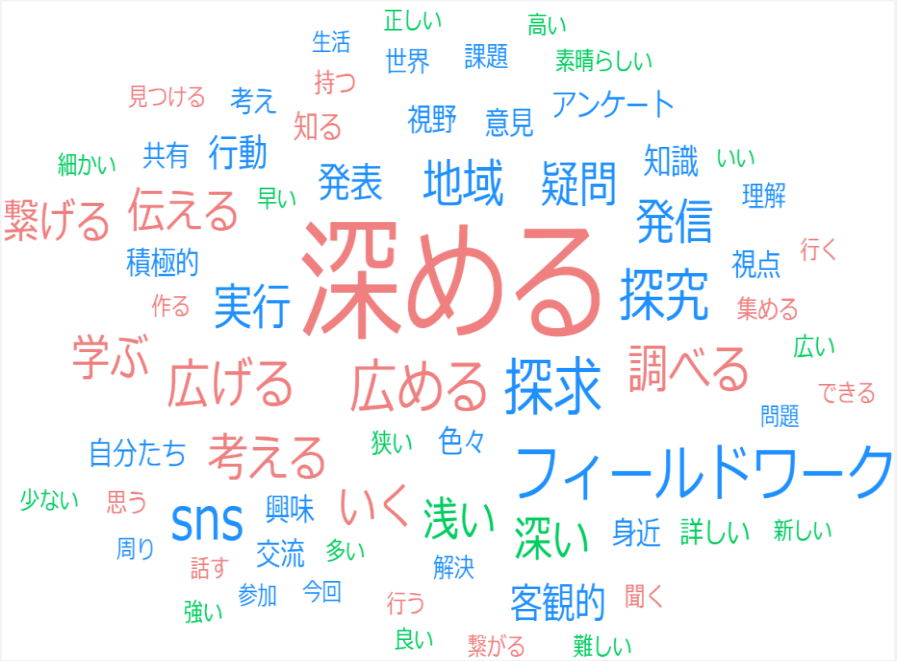
共栄力

- 実践的で多様な価値観を養う
- コミュニケーション能力や表現力が育まれる
- 地域・社会課題解決に取り組む態度が育まれる

最終アウトカム

- 学び・チャレンジし続ける人材を育成する
- ミスマッチをなくした進路決定を全校生徒に
- 多様な価値観を理解し協働する人材を育成する
- 人類・地域社会に貢献する人材を育成する

Ⅲ 課題および今後の取組



1．課題および今後の取組

コンソーシアムの継続的な連携が続く仕組み作り

地域社会学科の特色ある学びを支えるのは、コンソーシアムを構築する機関等との継続的に連携が続く仕組みづくりである。国の指定期間内で、それぞれの機関と更なる連携・協働を行い、学校内の学びから学校外での学びへと発展できる「地域全体の学び」となるよう更なる仕組みを構築する。

コーディネーター機能の維持

指定期間後のコーディネーター機能の維持については、
①コーディネーター加配に関する予算の確保
②教員のコーディネーター機能の移行
③企業協力による人員配置 等の方策を含めて、コーディネーターの望ましいあり方について指定期間中に検討し、方向性を決定する。

地元自治体の「地域おこし協力隊」が、コーディネーターとして市内の高等学校を連携して活動することも視野に入れたい。